

論文番号 32

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名(原題/訳)

Alcohol consumption had no beneficial effect on serum lipids in a substantial proportion of patients with primary hyperlipidemia

アルコール摂取は多くの原発性脂質代謝異常の患者の血清脂質に予防的な働きはなかった

執筆者

Sijbrands EJ, Smelt AH

掲載誌(番号又は発行年月日)

Journal of Clinical Epidemiology. 2000 ; 53(10):1020-4.

キーワード

原発性脂質代謝異常、アルコール摂取、HDLコレステロール、冠動脈疾患

要旨

中等度のアルコール摂取によってHDLコレステロールが増加し、心筋梗塞に対して予防的に働くことはよく知られている。しかしながら、原発性脂質代謝異常の患者においても同様の予防的効果があるかどうかについては明らかにされていない。そこで、本研究では、未治療の原発性脂質代謝異常の患者において、飲酒が空腹時血清HDL濃度に与える影響について、年齢、性、食事、喫煙を調整して解析した。881名の調査対象患者の内訳は、高コレステロール血症が514名、高トリグリセリド血症が140名、中間型高脂血症が227名であった。高トリグリセリド血症の群では飲酒量に関わらずHDLコレステロール増加の効果はみられなかった。高コレステロール血症および中間型高脂血症の群では、中等度の飲酒(1日のアルコール摂取量30g未満)によってHDLコレステロールの増加が認められた。一方、中間型高脂血症の群では、多量飲酒(1日のアルコール摂取量30g以上)でトリグリセリドの増加がみられた。結論として、中間型高脂血症および高トリグリセリド血症ではアルコール摂取がもたらす心疾患予防効果は期待出来ない。しかし、高コレステロール血症の群ではアルコール摂取によってHDLコレステロールが増加し、冠動脈疾患の進展を遅らせる効果が期待できるかもしれない。